

たとえ明日、世界が終末をむかえても
今日、わたしは林檎の木を植えるだろう。

ベルリンの壁崩壊は

わたしに何をもちたらしめたのか
ブラーム監督が痛切な思いでつづる
祖国ドイツへの愛。

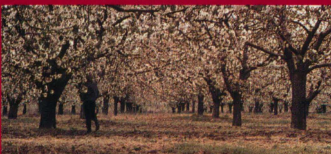
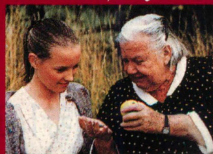


林 檎 の 木

ヨハンナ・シャルト
トーマス・ビュエル
ウド・クロシュヴァルト
シュテッフィ・スピラ
アンナ・サンダース

APFELBAUME
りんごのき

監督・脚本 ヘルマ・サンダース・ブラームス
製作 アルフレット・ヒュルマー
撮影 エルゲン・レンツ
美術 マルレーネ・フィルマン
音楽 マルク・ベアッコ



「ドイツ・青さめた母」「エミリーの未来」のヘルマ・サンダース＝ブラームス監督作品

92年カンヌ国際映画祭〈ある視点〉出品作品

93年江の島国際女性映画祭出品作品

93年東京国際映画祭カネボウ国際女性映画週間出品作品

製作 Eine Produktion der Alert Film Berlin ● ドイツ映画/1992年作品/ドイツ語版/カラー ● 配給 ヘラルド・エース/日本ヘラルド映画

林檎の木

ベルリンの壁崩壊はわたしに何をもたらしたのか
「ドイツ・青ざめた母」「エミリーの未来」のヘルマ・サンダース＝ブラームス監督が
痛切な思いでつづる祖国ドイツへの愛。

APFELBXUME

たとえ明日、世界が終末をむかえても 今日、わたしは林檎の木を植えるだろう。

(マルティン・ルターが残したといわれる言葉)

●1989年11月9日、ベルリンの壁が崩壊した。今世紀末を象徴するようなこの出来事は、人々に何をもたらしたのだろうか。

「林檎の木」は、「ドイツ・青ざめた母」「エミリーの未来」とドイツ社会を女性の視点でみつめてきたヘルマ・サンダース＝ブラームス監督が、旧東ドイツに住む一組の夫婦とおとして、東西ドイツ統一にいたってもなお、新しい波にもまれつづける人々の心と生活を、深い痛みと未来への祈りをこめて描いた作品である。

ある時代の終わりと新しい時代の始まりという歴史のはざまに埋もれながら、新たな一歩を踏み出そうとしている名もない人々への信頼と希望が、静かに息づいて心を打つ。

●主人公のレーナはベルリンの壁が築かれて1年後に生まれた「革命の子」である。彼女は輝ける社会主義国家・東ドイツのさらなる前進を担うべく、壁の歴史とともに成長した。しかし、政府がスローガンに高く掲げた理想が、日常のなかでしだいに色あせていくのを感じている。

彼女は祖母の「林檎は天から贈られた人間の果実よ」という言葉にひかれて、林檎園の仕事につく。そして、ささやかなロマンスと結婚。だがその幸せは、彼女に横恋慕した林檎園の上司の存在によって、袋小路におちいる。権力を背にしつこくいいよる男を、彼女は心の隙間をつかれたように受け入れてしまう。そんな男女の愛憎に、密告という社会主義国家の残酷な一面がからみ、三角関係は迷路にはまりこんでいく。

そこに風穴をあけたのは、皮肉にも壁の崩壊であった。生まれたときから当然のようにあったベルリンの壁が崩れ去る日がくるなど、だれが想像しただろう。しかも、あんなにあっけなく。

壁の崩壊は、息づまるような暮らしから東ドイツの人々を解放した。しかし、新生ドイツの喜びもつかのま、自由経済という新たな壁が人々の前に立ちはだかる。壁から壁へ、悲劇から悲劇へ。しかし、人々はそれでも未来を築いてゆく。

●ブラームス監督は、1本のドキュメンタリーがつくれるほどロケ地周辺で取材をかさね、多くの人々の話をもとに物語をかけた。そこは実際に東ドイツ政府自慢の国家プラントが行われていた地区で、ドラマを織りなす3人とも、実在の人物がモデルである。

彼らを中心に、ブラームス監督は東と西から二重に裏切られ、仕事を失い、生活を奪われた人々の言いようのない怒りと悲しみを、林檎の木に託して描いた。若い2人が結ばれたとき、生命の歓びをささやきあう林檎の木。そしてブルドーザーに殺されてえんえんと横たわる林檎の木。林檎の木はもう歌うことはないのか。

人間が人間にしたこと、自然にしたこと。人間の愚かさ、残酷さ、弱さ。同時に、絶望に追いやられても、ふたたび未来に希望をつないでゆく人間の強さ、美しさ。

「林檎の木」はブラームス監督と、今はない林檎園の住民との実際の交流の中で形になり、彼らと彼らの窮状に心をよせるスタッフやキャストの連帯によって完成した。

●レーナを演じるヨハンナ・シャルは劇作家プレヒトの血をひき、主として舞台で活躍、旧東ベルリンの劇団「ドイツ劇場」に所属している。夫を演じるトーマス・ビュヒェル、特異な風貌を持った組合長役のウド・クロシュヴァルトも「ドイツ劇場」の俳優である。レーナの少女時代は、ブラームス監督の1人娘で「ドイツ・青ざめた母」の幼女役アンナ・サンダースが演じている。ジョルジュ・ムスタキも参加した全編にしみわたるような音楽が印象深い。

なお「林檎の木」は、ブラームス監督の作品を支持する4人の女性、林冬子、小藤田千栄子、松本侑壬子、内田ひろ子の4氏によって、1993年2月、江ノ島国際女性映画祭で上映された後、9月の東京国際映画祭カネボウ国際女性映画週間に出品されて好評を博した。

1992年カンヌ国際映画祭「ある視点」出品作品

1993年江ノ島国際女性映画祭 出品作品

1993年東京国際映画祭カネボウ国際女性映画週間 出品作品



監督・脚本：ヘルマ・サンダース＝ブラームス

ヨハンナ・シャル／トーマス・ビュヒェル／ウド・クロシュヴァルト／アンナ・サンダース

ドイツ映画／1992年作品／ドイツ語版／1時間51分／カラー

製作：Eine Produktion der Alert Film Berlin／配給：ヘラルド・エース、日本ヘラルド映画

エキブ・ド・シネマ20周年記念作品

6月11日(土)より

エキブ・ド・シネマ
ロードショー

●地下鉄(都営三田線・新宿線/営団半蔵門線)神保町駅・下車1分
JR(中央線)水道橋またはお茶の水駅・下車12分 ●神保町交差点

●神保町交差点

●神保町交差点

特別鑑賞券1400円発売中!(当日1800円の処)

●岩波ホールチケットガイド(ビル1階)の他都内各プレイガイドにて発売中。
●団体のお申し込み・お問い合わせは岩波ホール。

上映時間

月～金	12:30	3:30	6:30
土・日・祝	11:30	2:30	5:30

自由定員制

●6月20日(月)6:30の回は休映。